

## 池袋本町電車の見える公園において発見された放射性物質について

### 1、これまでの経緯

- 4月20日(月) 区民から池袋本町電車の見える公園の放射線量が高いとの通報を受ける
- 4月21日(火) 測定体制の整備、高放射線量が計測された場合の手順確認など事前準備
- 4月22日(水) 区職員による公園内放射線量測定、遊具の一部で最高毎時2.53マイクロシーベルトの高放射線量を計測  
・遊具周辺をバリケードで封鎖
- 4月23日(木) ・第1回危機管理対策本部会議を開催(以降第18回まで随時開催)  
・原子力規制庁の助言を受けながら再度詳細に園内を測定、遊具付近の地表面で最高毎時480マイクロシーベルトの高放射線量を計測  
・遊具周辺の封鎖範囲を拡大するとともに、混乱防止のため公園全体を封鎖
- 4月24日(金) ・区議会より、豊島区が万全の対策をとることの要望が提出される  
・公益社団法人日本アイソトープ協会に依頼し、放射性物質を除去するための事前調査を実施  
・前日最高値を計測した地点周辺の直径約30cm、深さ約10cm程度の土壌を掘削した後、放射線量が著しく低減(前日毎時480マイクロシーベルト⇒毎時0.06マイクロシーベルト)
- 4月25日(土) 区および日本アイソトープ協会が合同で詳細な調査を実施  
・バリケード内を1メートルメッシュで測定。いずれの地点の計測値も毎時0.04~0.06マイクロシーベルトで平常値内  
・同エリア内の地表面からは汚染を示す異常値は検出されず  
・午後3時15分、第11回危機管理対策本部会議において、本部長である区長が同公園の安全を宣言
- 4月26日(日) 周辺住民の方々等に、これまでの経過と今後の対応方針を説明  
・周辺住民の立ち合いのもと、最高値を計測した地表地点を含む3か所で線量を測定。いずれも毎時0.05~0.07マイクロシーベルトで平常値内  
・園内の他の地点の計測値も、いずれも25日に続き平常値内  
・公園の立ち入り禁止指定を解除し、利用を再開

4月27日(月) 区民の皆様の不安を解消するための今後の対応策として、区は、公園や学校、保育園等子どもが利用する区内全施設の放射線測定を開始

4月28日(火) 日本アイソトープ協会より、24日に採取された土壌の中から発見された、直径3ミリ、高さ3ミリの円筒状のステンレスカプセル(線源)の核種はラジウム(Ra-226)と同定  
・線源を取り除いた土壌から汚染を示す数値は検出されなかったため、線源は完全に密閉された状態であることが判明。放射能が外部に漏れていないことを再確認

4月30日及び5月2日 周辺住民を対象とした住民説明会および個別相談会開催

5月29日(金) 区民への放射線測定器(2台)の貸出しを開始

5月29日及び5月30日 区民を対象とした住民説明会および個別相談会開催

## 2、子どもが利用する施設の放射線量の測定について

別紙参照

## 子どもが利用する施設の放射線量の測定について

池袋本町電車の見える公園でラジウム線源が発見されたことに伴い、子どもが利用する施設の安全確認のため、4月27日より放射線量測定を開始した。5月20日以降は区の委託業者が測定を行っている。

### ◆対象施設

公園等、小中学校、保育園等、子どもが利用する施設 243施設

### ◆測定方法

- ・地上屋外部分を縦横それぞれ10mの網目状に線を引いた際の交点部分について、5センチメートル及び1メートルの高さについて測定する。
- ・交点以外の部分について、測定器を低い位置で構えながら移動し、高い線量を示す場所がないことを確認する。

### ◆測定結果（4月27日～6月16日の224施設の測定結果）

	測定値	
	地上 5cm	地上 1m
最大値	0.44	0.12
最小値	0.03	0.03

単位は  $\mu\text{Sv/h}$ （マイクロシーベルト）

### ◆局所的に高い放射線量を計測した場所について

豊島区放射性物質対策ガイドライン（平成23年12月策定）に従い、放射線量の高い部分を除染することになっている。

これまで2箇所の公園において、区の除染目標値（地上5cmで $0.23\mu\text{Sv/h}$ 未満）以上の値（5月27日大塚台公園で $0.30\mu\text{Sv/h}$ 、6月4日西池袋公園で $0.44\mu\text{Sv/h}$ ）を計測したため、除染を行った。その結果、放射線量は平常値（それぞれ $0.07\mu\text{Sv/h}$ 、 $0.09\mu\text{Sv/h}$ ）まで下がった。

なお、放射線量が高かった原因は、放射性セシウムによるものであり、ラジウムなどは検出されなかった。

### ◆結果の公表

測定結果や局所的に高い場所を計測した場合の対応状況については、随時ホームページ及び安全安心メールにて公表している。

### ◆今後の予定

6月中に全ての施設の測定を完了する予定。

「池袋本町電車の見える公園」で放射性物質が発見された事例への対応

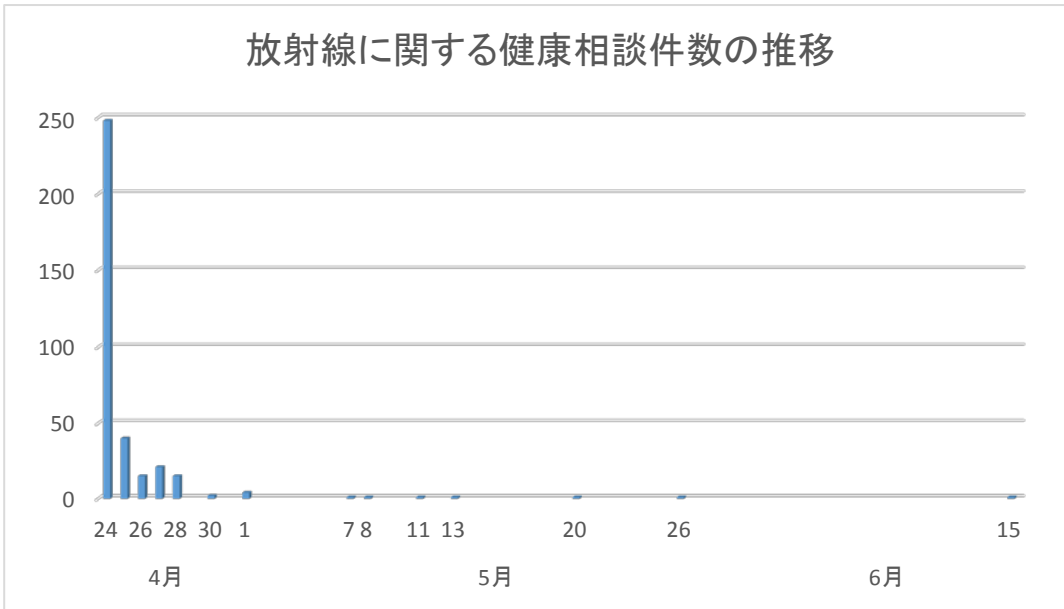
【1. 相談対応】

1. 相談件数集計

- ・4月24日(金)8時30分より相談窓口を設置し、医師・保健師が対応にあたった。
- ・開設日と時間:24日(金)～26日(日)は、8時30分から午後7時まで。  
27日以降は、相談件数の減少を受けて、平日の8時30分から午後5時15分までとした。
- ・マスコミ対応:NHK、日本テレビ、TBS、東京MX、フジテレビ、読売新聞、東京新聞、産経新聞、時事通信、日刊スポーツ、連合ニュース、めざましテレビ、ミヤネ屋、テレビ朝日、報道ステーション、グッドモーニング等【17の会社・番組】

放射線に関する健康相談件数の推移

27.6.17現在



2. 相談者の属性

項目	人数	割合
公園利用者	210	60%
公園通過	7	2%
公園利用なし	21	6%
その他	7	2%
不明	110	31%

(複数回答)

3. 相談対象者

項目	人数	割合
本人	71	20%
家族(子ども)	178	51%
その他	9	3%
不明	94	27%

4. 相談内容

項目	人数
情報収集したい	93
健康への影響を知りたい	223
除染方法を知りたい	14
被ばく線量を測ってほしい (ヒトの被ばく線量)	65
医療機関を知りたい	26
公園等管理への不安、苦情	45
その他	37

(複数回答)

## 【2. 住民説明会】

4月30日から5月30日までの間に、4回実施した。

### ①第1回説明会

日時:4月30日(木) 18時~21時15分

場所:区民ひろば池袋本町 1階

参加者数:110名

内容:(1)区の対応について(環境保全課長)

(2)放射線について・健康への影響について

(国立保健医療科学院 生活環境研究部 櫻田部長・山口上席主任研究官)

(3)質疑応答

### ②第2回説明会

日時:5月2日(土) 14時~17時20分

場所:区民センター4階

参加者数:76名

内容:第1回と同じ

### ③第3回説明会

日時:5月29日(金) 18時30分~19時50分

場所:池袋保健所3階講堂

参加者数:2名

内容:第1回に同じ(講師は櫻田部長)

### ④第4回説明会

日時:5月30日(土) 14時~16時30分

場所:池袋保健所3階講堂

参加者数:7名

内容:第1回に同じ(講師は櫻田部長)

\*説明会での質疑応答については、豊島区ホームページ上で速やかに公開(最終更新日6月18日)。

## 【3. その他】

### (1)職員勉強会

日時:5月21日 10時~12時

場所:区民センター

講師:櫻田部長、山口上席主任研究官

参加者数:24名

内容:正しい知識とリスクコミュニケーションの手法について学び、これまでの対応の振り返りを行った。  
対応困難事例に対する支援・相談対応の方法について意見交換を行った。

### (2)関連資料の展示および貸出

図説ハンドブック「放射線の基礎知識と健康影響」(平成25年度版(改訂版))

・付属DVD「平成25年度 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」

発行:環境省放射線健康管理担当参事官室・独立行政法人放射線医学総合研究所

展示場所:池袋保健所1階「鬼子母神plus」(貸出可)

(参考資料)

区立「池袋本町電車の見える公園」での放射線量検出にかかる  
健康への影響について【6月18日更新】  
(4月30日、5月2日、5月29日、5月30日の説明会でのQ&A集)

※説明会・個別相談会開催実績について

4月30日から5月30日までの間に、4回の説明会・個別相談会を開催しました。  
日時、場所および参加人数は下記のとおりです。

- (1) 4月30日 18:00～21:15 区民ひろば池袋本町 110名
- (2) 5月 2日 14:00～17:20 区民センター 76名
- (3) 5月29日 18:30～19:50 池袋保健所 2名
- (4) 5月30日 14:00～16:30 池袋保健所 7名

説明会・個別相談会でのご質問をまとめました。

～目次～

【ラジウム線源関係】・・・・・・・・・・Q1～Q9

【区内の放射線量測定について】・・・・Q10～Q12

【個人が行う線量測定について】・・・・Q13～Q14

【電車の見える公園関係】・・・・・・・・Q15～Q16

【日常生活について】・・・・・・・・・・Q17～Q18

【健康影響について】・・・・・・・・・・Q19～Q25

付) ○線源に手で触れた場合

○線源が口に入った場合

【検査・医療について】・・・・・・・・・・Q26～Q30

【今後の対応について】・・・・・・・・・・Q31～Q32

【ラジウム線源関係】

Q1 発見されたラジウム線源はどのようなものか。

A1 円筒形で(直径3mm×高さ3mm)のステンレスのカプセルの中に、37メガベクレル(1ミリキュリー)のラジウムが密閉されていました。ラジウムが入っていた

ステンレスカプセルの密閉性は確保されており、中のラジウムが漏れ出ることがないことが確認できました。

Q2 ラジウム線源は、公園内のどの場所にどのような状態で埋まっていたのか。

A2 複合遊具の二つの階段の間の地面の下、直径約30センチ厚み約10センチ程度の土のかたまりの中から見つかりました。

Q3 ラジウム線源が、なぜ公園で見つかったのか。事件性はあるのか。

A3 事件性については、警察が調査を行っています。新しい事実が分かれば、速やかに公表します（区のホームページへの掲載等）。

Q4 発見されたラジウム線源の用途や製造時期は。

A4 公益社団法人日本アイソトープ協会に意見を求めましたが、用途や製造時期については不明であるとの回答です。

なお、線源に刻印されている「1」が1ミリキュリーを表すものと考えれば、放射線測定機器の校正などの用途が想定されます。

また、今回発見された線源は、国内で製造されたとは考えにくいことから、海外から輸入された可能性が高いと思われます。

Q5 これまでに紛失され、未回収のままの放射性物質の中に該当するものはないのか。

A5 原子力規制庁に確認をしたところ、該当するものはありませんでした。

紛失した放射性物質の中で、今回発見されたものと同じ放射線量（Ra226、37MBq）のものは、すべて今回発見されたものとは形状が異なっています。

Q6 土地の来歴を知りたい。

A6 昭和初期以降現在までの経過は、次のとおりです。

昭和初期	畑
昭和14～19年頃	東京ガス（株）のグラウンド
昭和19年	東京都が土地を購入
昭和20年代頃	清掃車庫として使用開始
平成17年	清掃車庫の廃止
平成21年	清掃車庫の解体
平成25年3月	電車の見える公園開園

Q7 区内の他の公園でも、同じことが起こる可能性はないのか。また、ラジウム線源は1個だけだったのか心配である。

A7 区内の子どもが利用する施設については、4月27日から順次放射線量測定を行って、その結果は、随時区のホームページに掲載し、安全・安心メールでもお知らせしています。また、ラジウム線源が発見された1個だけだったのかについては、その経緯も含めて解明できるよう努めています。現在までの区内の線量測定(\*)では、高い値は検出されていません。

(\*)区内の線量測定について：区内3か所で定点測定を継続的に実施しています。また、今回、線源が発見された公園、子どもが利用する施設の測定を実施中です。

Q8 発見されたラジウム線源に関連して、放射性物質の管理・規制はどうなっているのか。

A8 放射性物質の規制は、「放射線障害防止法」等によって行われています。放射線障害防止法は、昭和32年に、放射性障害を防止し、公共の安全を確保することを目的に制定されました。規制対象は、放射性同位元素(線源)の使用、販売、賃貸、廃棄その他の取扱い、放射線発生装置の使用および放射性同位元素によって汚染された物の廃棄その他の取扱いです。現在は、放射線障害防止法等によって、線源は適切に管理されています。

Q9 ラジウム線源から放射性物質が出ていない、というのはどういうことか。放射線は出ていて、高い放射線量が測定されているのではないのか。

A9 今回のラジウム線源は、放射線(ガンマ線)を出しており、測定器で検出できました。その後、線源部分を土と一緒に除去したところ、数値が周囲と同じ程度にまで下がりました。放射線は目で見ることはできませんが、物理現象ですので、測定することができます。また公園の土を測定すると、土壌の汚染は無く周囲に放射性物質が漏れていないことが確認できました。

#### 【区内の放射線量測定について】

Q10 放射線量測定結果について、最新のデータやこれまでの測定結果を知りたい。

A10 測定結果を豊島区ホームページで公開しています。

- ・子供が利用する施設の放射線量の測定を開始しました。

<http://www.city.toshima.lg.jp/153/machizukuri/sumai/hoshasen/sokute/1504281151.html>

- ・池袋本町電車の見える公園の放射線量測定結果をお知らせします。

<http://www.city.toshima.lg.jp/153/machizukuri/sumai/hoshasen/sokute/1504282012.html>

また、安全・安心メールでもお知らせしていますので、ご利用ください。



Q1 1 近隣区（板橋区、北区等）での放射線量測定について、連携してやってほしい。

A1 1 近隣区の考え方を確認しながら検討していきます。

Q1 2 今後の危機管理として、豊島区が土地を購入する場合には、土壌調査とあわせて放射線検査も行うのか。

A1 2 今後購入する土地についても放射線検査を行います。

#### 【個人が行う線量測定について】

Q1 3 線量計は専門的な器械で、個人で測定するというのは正確さの点からも難しいのではないかと。

A1 3 個人でも線量計を購入できる環境になっています。比較的安価な線量計も出回っていますが、線源の近くであれば線量率が周囲と異なることを見つけるのは可能です。区では、特定の機種を推奨することはしておりません。購入される場合は、販売業者にお問い合わせください。

なお、継続して正しい測定を行うためには、定期的なメンテナンスが必要ですが、国民生活センターでも下記のような情報提供がなされています。

- ・購入する際には、校正済みの製品であるか（正しい値に補正されているか）、校正定数が示されているかについて確認を行ってから購入、使用するとよい。

- ・継続して使用するには、定期的に校正を依頼するなどの管理が必要である。

Q1 4 個人で測定器を購入すると、高価でもあり、メンテナンスの問題もある。区で購入して貸し出す、ということはあるか。

A1 4 区で測定器を購入し、5月29日から区民の皆様への貸し出しを開始しました。詳細は、環境保全課（電話 03-3981-2405）までお問い合わせください。

#### 【電車の見える公園関係】

Q1 5 開園時に放射線測定を実施していなかったことについて

A1 5 東京電力福島第一原子力発電所事故後の平成 23、24 年度は、区内のすべての公園で放射線量の計測を実施していました。この公園が開園した平成 25 年度には、測定値が通常の値に戻っておりませんでしたので、公園の測定は行っていません。

Q1 6 区は電車の見える公園の安全宣言を出したが、植え込みや花壇も測定しているのであれば、公表してほしい。また、不審者対策も含めて、公園全体の安全管理につい

でもお願いしたい。

A16 測定データを豊島区ホームページ上で公開するとともに、安全・安心メールでもお知らせしています。また、地域の安全確保のために、青パトによる巡回など地域の見守りを行っています。

(ご意見) 今後の放射線量測定について、長期にわたって(何年という単位で)測定してもらいたい。安全だと思っていた公園でこのようなことが起き、大変残念です。今後も安全に遊べるようにしてほしい。

#### 【日常生活について】

Q17 電車に見える公園を利用していたが、靴や服が汚染されているのではないのか。自宅に持ち込んだ可能性はないのか。

A17 公園で発見されたラジウム線源は、放射線(ガンマ線)は出していましたが、内部の放射性物質は周囲に漏れ出していませんでした。これは、放射線量測定でも確認いたしました。公園の土壤汚染はありませんので、公園を利用した方の靴や服に放射性物質がついていることはなく、自宅への持ち込みについてのご心配はありません。同様に公園で使ったおもちゃや自転車についても心配は不要です。

Q18 電車に見える公園から土ぼこりが風でまき散らされて、洗濯物や蒲団に付着した可能性はないのか。

A18 公園で発見されたラジウム線源は、放射線(ガンマ線)は出していましたが、内部の放射性物質は周囲に漏れ出していませんでした。したがって、公園の土壤汚染はありませんので、土ぼこりが立っても、その中にラジウムが含まれていることはありません。外干しした洗濯物や蒲団等についても、ラジウムの付着のご心配は不要です。

#### 【健康影響について】

Q19 「健康影響がない」という発表は、「子どもは園内で動きまわっているので、受けた放射線量は少ない」という前提に立っている。子どもの実際の活動状況を様々に想定して考えるとどうなるか。

A19 放射線を浴びた量は、「線量率」×「時間」というように考えます。

たとえば、

線量率が毎時480マイクロシーベルトで15分の場合では、120マイクロシーベルト

線量率が毎時5マイクロシーベルトで30分の場合では、2.5マイクロシーベルト

というように計算します(例示)。

実際に受けた線量は、線源が3ミリ×3ミリの大きさの「点線源」であったこと、地中に埋まっていたこと、線源付近でとったヒトの行動に依存しますので、次のように考えて試算していきます。

○線源を中心に半径5メートル範囲内を自由に動き回り、2時間滞在したと仮定した場合⇒2時間で3.6マイクロシーベルト程度⇒(同じように年間200日繰り返し遊ぶと0.7ミリシーベルト)

Q20 年間1ミリシーベルト(1,000マイクロシーベルト)という数字は、資料では「一般公衆」の許容線量、ということだが、これは成人を指すのか。成人と子どもでは、違いはないのか。

A20 公衆の線量限度は、法令上は成人と子どもを分けていません。年間1ミリシーベルト(1,000マイクロシーベルト)は、すべての人についての安全性を担保する値です。この値を超えたら健康に影響が出る、という数値ではなく、放射線防護を実施するための指標です。この値を超えないようにする必要がありますし、逆に超えなければ何もしなくてよい、というものでもありません。

では、おとなと子どもの違いは何でしょうか。子どもはおとなに比べて、高線量被ばくによる発がんの可能性が高いことが知られています。一方、100ミリシーベルト以下の被ばく量では、他の要因による発がんの影響(タバコ、化学物質、その他生活習慣)によって隠れてしまうほど小さいため、放射線による発がんリスクの増加は明らかになっておらず、年齢層の違いによる発がんリスクの差についても明らかになっていません。

今回の線源からの放射線量については、全体としては健康に影響がないレベル(原子力規制庁「線量が高い範囲は狭く、長い時間立ち止まるような場所ではないため、普通に遊んでいる場合であれば、人体に影響はない。」)とされていますが、区としては、専門家に相談しながら、公園は子どもが遊ぶ場であることを念頭において、今後の対策を進めてまいります。

Q21 子どもが線源のあった場所で土いじりをしていた場合、口に入れて被ばくしていた可能性はないのか。

A21 公園内で発見されたラジウム線源は、放射線(ガンマ線)は出していましたが、放射性物質は周囲に漏れ出していませんでした。したがって、土壌が汚染されたことはありません。そのため、公園の土が口に入ったとしても、それによってラジウムによる内部被ばくを受けたことはありません。

Q22 線源が埋まっていた場所に、手をくっつけていた場合の健康影響はどのように

考えるのか。

A22 線源から距離を取ると線量が小さくなるという説明に対して、逆に線源に近づいた場合に線量が大きくなるのではないかとのご質問頂きました。からだ全体への影響は「実効線量」で考えますが、空間線量は実効線量を安全側に評価しており、線源が埋まっていた地面に寝転んだ場合でも毎時480マイクロシーベルトを超えないと考えられます。何故なら、線源の近くでの姿勢の違いは、体に入ってくる放射線の数に大きな影響を与えないからです。なお、手に与える線量は、次の質問の場合に比べて2千分の1以下だと考えられます。

○次のような質問もいただいています。

Q 線源を直接手で触った場合は、どのような健康影響があるか。

A 線源を手で触った場合の体への影響も、被ばく線量の大きさによります。線源に一定時間触れると皮膚に症状が現れることがありますが、このうち、初期一時的紅斑（夏の日焼けのように皮膚が赤くなること）をもたらず線量が、もっとも小さいとされています。直接この線源に触った場合には、ステンレスの厚みにもよりますが、2時間程度の接触で、上記の日焼けのような症状が起こる可能性があります。今回の線源が発見された場所の土は、固まった状態で、最近掘り起こした様子はなく、その線源に子どもが直接接触したことは考えにくいと思われれます。

Q 線源そのものが口に入った場合は、どのような健康影響があるか。

A もし、呑み込んだ場合は、この線源は消化吸収されるものではないので、口から入って消化管内を移動し、一日程度で便と一緒に排泄されと考えられます。したがって、体内にある間は内部被ばくとなりますが、体内に放射性物質が蓄積することはないと、排泄されます。内部被ばくについては、その間に受ける実効線量は線源が体表面にあった場合と大きく変わらないと考えられます。

Q23

放射線の影響は、体内に蓄積するのか。

A23 内部被ばくはありませんので、放射性物質が体内に蓄積することはありません。外部被ばくとして、放射線を繰り返し被ばくした場合も、放射線は体内に蓄積しません。一方、生体影響としての遺伝子の突然変異（遺伝子の傷のようなもの）など放射線の影響は蓄積します。ただし、放射線生物学上は、同じ線量を被ばくした際には、一度に被ばくするより、少量ずつゆっくり浴びた方が影響は低いと考えられます。

Q24 発がんのリスクについて、その影響は「受けた放射線量の積算」（足し算の考え方）でよいのか。

A24 「積算」で考えます。ただし、同じ積算量であっても、一度に受けた場合よりは、少しずつ複数回受けた場合の方が健康影響は小さいと考えられます。

Q25 将来がんになった場合、その原因は特定できるか。

A25 特定することはできません。今回のような低い線量の場合は、他の発がん因子（喫煙、化学物質への曝露、生活習慣など）の影響と区別ができないほどリスクは低いです。また、特定の発がん物質（因子）と発生するがんの因果関係については、アスベストと中皮腫の場合のような場合を除き、困難です。（中皮腫は頻度の少ないがんであるため、アスベストへの曝露歴があれば、因果関係があると推定できます。）

#### 【検査、医療について】

Q26 どれくらい被ばくしたかを調べる方法はあるか。

A26 今回は外部被ばくのみで、内部被ばくの心配はありません。したがって、ヒトの体から直接、被ばく量を測定することはできません。

Q27 健康影響について、定期検査等の血液検査でわからないか。

A27 線量が多い場合には、血液を採って白血球を培養して染色体検査（染色体の傷をみる検査）を行うのが通常のやり方です。しかし、今回のように、多くても1ミリシーベルト程度のレベルでは、生活環境による傷との区別がつかないので、検査を受ける意味がないと考えられます。

Q28 低線量の場合になる病気はあるか。

A28 推定される線量から考えて、すぐに健康影響が出る線量ではないため、急性影響が生じることは考えられません。喉の具合が悪い、婦人科系の疾患にかかっている、鼻血が出る、等の症状を心配してご相談を寄せていただいている方もありますが、放射線の影響のご心配は不要です。それぞれ、通常の療養、必要に応じて通常の医療機関受診をなさってください。

低線量では、しきい値のない病気（白内障、固形がん、白血病など）については、放射線防護（受ける放射線は少ないほど良い）の観点では小さなリスクがあるかもしれませんが、低線量ではリスクは小さくなります。今回の事例では、線量は小さく、それによるリスクの存在の証明が困難な程度です。

Q29 甲状腺の検査はしなくてよいのか。

A29 甲状腺検査を行うのは、放射性ヨードを体内に取り込んだ場合です。今回の原因はラジウム線源であり、また、内部被ばくはありませんでしたので、甲状腺検査を行

う必要はありません。

Q30 検査できないということだが、セシウムについては尿検査でわかるのではないか。

A30 セシウムの内部被ばくであれば、尿検査等を行い、摂取量を調べるのが考えられます。今回は、同じ放射線（ガンマ線）を出していますが、その原因はラジウムで、セシウムとは異なる物質です。また内部被ばくは有りませんので、尿検査は必要ありません。

【今後の対応について】

Q31 事例の経過や調査中の項目について、最終報告ではなく、中間報告をしてほしい。

A31 説明会の状況や新たな事実、放射線測定結果等について、随時、情報を公開します。引き続き豊島区のホームページなどに掲載します。

Q32 今後の説明会・相談窓口、資料の貸し出しについて。

A32 説明会については、現時点では開催予定はありません。相談窓口は、引き続き池袋保険諸健康推進課（電話3987-4174）で受付けておりますので、ご利用ください。また、放射線測定に関する事、公園に関する事について、担当部署に窓口がありますのでご利用ください。

放射線の健康影響に関する資料を、保健所で閲覧できるようにするとともに、貸し出しも行います。

\*資料名：①DVD「平成25年度 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料」（環境省放射線健康管理担当参事官室 独立行政法人放射線医学総合研究所）

・・・環境省のホームページでも公開されています。

②図説ハンドブック「放射線の基礎知識と健康影響[平成25年度版（改訂版）]

・・・上記統一的な基礎資料のうち、放射線の基礎知識や健康影響に関する部分をハンドブックにまとめたものです。

閲覧場所は、池袋保健所1階の情報発信スペース「鬼子母神 plus」です。

DVDおよびハンドブックの貸し出しを希望される方は、詳細を健康推進課までお問い合わせください（電話 03-3987-4174）。

※相談窓口

○調査結果・放射線測定に関すること : 環境保全課  
電話 03-3981-2405

○健康に関すること : 池袋保健所健康推進課  
電話 03-3987-4174

○公園に関すること : 公園緑地課  
電話 03-3981-0534

\*いずれも、(月)～(金)8:30～17:15 (祝休日を除く)